

ルーズ型ボルトレススペーサ（2 導体・4 導体用） 概略仕様書

1. 適用範囲

多導体の架空送電線路におけるギャロッピングの抑制を目的として、固定把持部とルーズ把持部を有し、素導体間隔を規定に保つ2 導体ならびに4 導体用ルーズ型ボルトレススペーサに適用する。

2. 種類

(表 1) 電線サイズ一覧表

導体数	電 線		素導体の配列		備 考
	種別	公称断面積 (mm <sup>2</sup> )	素導体の間隔 a (mm)	形状 (正方形)	
2	(T)ACSR	240,330, 410,610	400	a ◎—○	把持機構 ◎ : ±80° ○ : 固定
	SBACSR/UGS (UAC,EAC)	320 (290) 420 (400) 530 (500) 780 (740)			
	(T)ACSR	810	500	a ◎—○	
	SBACSR/UGS	1,010			
4	(T)ACSR	410	400	a ◎—○	把持機構 ◎ : ±80° ○ : 固定
	SBACSR/UGS (UAC,EAC)	530 (500)			
	(T)ACSR	610,810	500	a     ◎—○	
	SBACSR/UGS (UAC,EAC)	710, 780 (740)			

3. 構造

- 素導体相互の間隔を表 1 に示すように把持する。
- 把持部の半分は電線軸に対して±80° 回転可能で、他の半分は固定となる機構であること。
- ルーズ把持部はロック機能を有する構造であること。

- 把持部は、素導体の種々の方向への運動に対して、電線に有害な応力および損傷を与えない構造とする。
- スペーサの各部は、耐摩耗性の高い構造とする。
- 電線把持部は、コイルばねを用いたボルトレス構造とする。
- 電線把持部は、常に安定した把持力を有し、経年による著しい把持力の低下が発生せず、また万一、把持力の著しい低下が発生した場合においても、電線に有害な損傷を与えない構造とする。
- 取付、取外しには、特殊工具を使用しないものとする。
- 電線把持部部品（ただし、施工時に取外す部品は除く）は、取付時の落下防止対策を施すものとする。
- 微風振動に対してガタの少ないものとする。
- ヒレ付電線を使用する場合、電線把持部は電線のヒレに適合する溝付きアルミカラーを有する構造であること。

4. 材質

本品の材質は原則として日本工業規格（J I S）に定められた材料を用いるものとし、鉄鋼材料には耐食性の面から溶融亜鉛めっきを施すものとする。

(表 2) 代表的な材質

主な部品	材 質	工業規格
スペーサ, ボルト	一般構造用圧延鋼材	J I S G 3 1 0 1
クランプ, カラー	アルミニウム合金鋳物	J I S H 5 2 0 2
コイルばね	弁ばね用オイルテンパー線	J I S H 3 5 6 1

5. 検査

検査は、物品審査または受入試験とし、試験は原則として製造工場で行う。